



## [ エマオ通信 ]

No.8 (2025年3月15日発行)

発行人 高良 研一 (会長)

編集人 稲川 仁 (副会長・事務局長)

発行者 木村 均 (書記)

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 「伝道者養成と教会形成を担う働き」

24/25年度主題: 「私と教会が元気になるには」

聖句: わたしたちの心は燃えていたではないか (ルカ 24:32)

## &lt;メッセージ&gt; 「五島での協力伝道のめぐみ」

森 崇 (常盤台教会牧師)

## 信仰の灯火消えぬ五島には先人の涙白き十字架 綾子

五島キリスト教会は、五島にある唯一のプロテスタント教会で、現在、中村聖架牧師が教会員と共に、地域の方々にイエス・キリストの福音を伝える働きを続けています。

常盤台バプテスト教会では、2022年に友納靖史牧師が五島キリスト教会で宣教奉仕を依頼されたことを機に、協力伝道の働きとして、2023年伝道隊を派遣する計画を立案しました。先発隊(種まき前の地ならし隊8名)は、10月6日~9日の予定で「ファミリーファンデー」と『塩狩峠』上映会案内のチラシ配布を、後発隊(種まき隊7名)は、10月21日~23日の予定で、21日午後『塩狩峠』の上映会、22日に「おはなし(絵本と歌)カフェ」などを実施しました。平常は主日礼拝の成人出席が4,5名のところ映画会では20名もの来会がありました。「小説で読んだので」と、初めての方も多く来会され、嬉しい結果となりました。上映後は、映画の感想を分かち合い、よき交わりの時となりました。五島教会のすぐ近くに新しくできた五島市立図書館と共に、五島には映画館がないことにも着目した集会でした。その際ののちのことば社には「開拓伝道」として許諾料免除の上映許可を頂きました。より映画館並みの臨場感をと、石原誠神学生(西南学院大学神学部)が私物の機材や暗幕を準備してくれました。

どの集会も教会に継続して来られるように直接的な福音宣教ではなく、地域と教会の橋渡しを念頭に奉仕いたしました。五島教会と繋がる機会を神さまからいただいた事に感謝し、与えられた繋がりをさらに深めたいとこれからの祈りの課題になりました。2024年度にはキッチンのリフォームをしたいという五島教会の祈りに応え、そのための祈りと献金を積み重ねました。離島で伝道される兄弟姉妹の皆様のご苦勞を覚えます。常盤台バプテスト教会はこれからも助けを必要とし、声をかけてくださる教会と共に主の働きを担うことをこころより願っています。



## &lt;証①&gt; 「共に取り組んだ全国大会」

西九州地方連合壮年会長 山崎 誠 (佐賀教会)

2024年夏、全国で2番目に小さい西九州地方連合壮年会は、「協力伝道」をテーマに全国壮年大会を担わせていただきました。全国の主にある兄弟姉妹のご協力と神様の導きにより、無事終えることができました。心から感謝いたします。大会準備は、テーマである「協力伝道」とは何を意味するのかとの議論から始まりました。最終的に私たちは、一人の実行委員の協力伝道理解を私たちの協力伝道理解として受け入れました。

彼はALSという難病にもかかわらず、実行委員として志願された方で「私は3年後の大会に参加することは叶わないけれど」と前置きしたうえで「協力伝道とは、欠けた者同士が、認め合い、愛をもって教会形成をすること、他所の教会に口を挟むように聞こえるが、欠けた者が共に補い合う、これが協力伝道」と発言されました。

壮年会を組織することもできない少人数の教会、伝道所も多くある西九州地方連合です。大会の実行委員の中には、パソコンが扱えない、大会の発表原稿が書けない等と謙遜される方々も多くありました。しかし、26回3年間にも及ぶZoom会議には、それらの方々も、パソコン操作のできる兄弟姉妹の協力をいただき必ず参加していただきました。私たち実行委員は、会議毎にそのような忠実な方々の姿を見ることで大変励まされました。小さく弱い私たちですが、それぞれの力に応じて補い合い、助け合ってバプテスト教会ならではの信徒による手作りの大会を開催することができました。

私たち全国の壮年には、神学校献金の推進を通じた伝道者養成の働きが与えられています。これからもそれぞれのタラントに応じて、共に励まし合い取り組んでまいりましょう。



## <証②> 「教会の中における一人の壮年信徒としての立ち位置を考えて」

奨学金委員 浦瀬 佑司（札幌教会）

31歳頃から教会の執事としての働きに仕えてきましたが、忘れられない先輩の一言があります。その方は、長く銀行に勤められた後、教会附属幼稚園の事務の仕事に就かれた熱心な教会員の方でしたが、『教会の組織管理は難しい。任意による柔らか組織だから、強制力は使えないからね。』という言葉です。確かに一見、教会の組織は一般社会の組織に似たように思えますが、集っている教会員は、嫌なら止めるということが自由に出来、会員に強制的な人間的な力は使えませんから、難しいと考えざるを得ないのです。



その頃、国家公務員として、札幌にある地方支分部局で組織管理に関する業務を仕事にしていたので、国家機関の組織と教会の組織の違いを、どう考えるべきかについて悩む結果となりました。

当時の札幌教会の会員数は、75名前後だったと記憶しています。新生運動などを経験した教会では、バプテスマ者数としては、1000名を遙かに超えているにもかかわらず、100名未満の現在会員数でしかないということは、なぜかということも考えざるを得ない課題でした。そのような中、牧師が75日間テキサスの教会で研修に招かれ、帰国後の報告を聞いたときに1つのヒントが与えられたいです。それは、一人の執事がほぼ10家族を担当し、牧会情報を把握し、牧師と共有しているという情報でした。このことから、地区牧会という信徒牧会の方法を採用し、1つの壁と言われていた100名の現在会員の壁を越えることが出来ました。

このことを経験しながら、社会におけるいろいろな経験が豊富な信徒が、教会のあり方について積極的な施策の策定や実質的な働きを担うことが必要ではないかと思うようになりました。教会マネジメントにおいて、確かに一般企業におけるマネジメントを適用することは困難かもしれませんが、ヴィジョン、プラン、プロセッシング、ディレクティング、評価、分析そしてコーディネーションは、教会マネジメントにおいても必要な作業です。特に、評価、分析そしてコーディネーションが十分に行われているかが大切ではないかと思うときに、壮年信徒（女性も含めて）の教会における働きは重要ではないのか、そのような奉仕の場が必要ではないかと考えています。

### <今後の歩みと働きのための祈り>

#### ◎一人ひとりが伝道者、そして献身者となり、教会の働きを担う主体となるために:

- そのためにも、神学校での(オンライン)受講等により、良き学びの機会が与えられるように。
- 無牧師の教会での信徒の説教や牧会等の奉仕が豊かに用いられるように。
- 信徒一人ひとりの献身から「教役者の働きを担う献身」へ導かれるように。

#### ◎特色と強みを生かした三つの神学校(西南大神学部、東京バプ、九州バプ)と宣教研究所との相互連携により、諸教会・伝道所での牧師や各教会員の学びが豊かに祝われますように。

#### ◎教会形成を担う働きとしての協力伝道の一環として:

- 常盤台教会の五島教会での協力伝道の働き
- 福岡連合の姪浜教会壮年会の老岐教会での修養会
- 西九州連合の五島教会への協力伝道
- 北海道連合の3教会合同WEB礼拝
- 中部連合壮年会の福井教会への協力伝道

のように、各教会での協力伝道の取組みや各地方連合やその壮年会を通じて伝道隊を含めた協力伝道の業により、一人ひとりが元気になる、教会が元気になることができるように。

#### ◎2025年8月22日(金)～23日(土) 第60回全国壮年大会 in さいたま(埼玉の浦和教会でオンライン併用)

- 北関東連合壮年会実行委員長: 戸田 浩司(西川口教会)
- テーマ: 「これからの No Border な教会の話をしよう! ~教会が『教会』であり続けるために~」
- 主題講演 講師: 朴 思郁(日本バプテスト連盟宣教研究所所長、西川口教会牧師)
- 多くの参加者(オンラインを含む)にとって良き学びの大会となるよう、準備にあたっている実行委員会のために祈りましょう。

#### ◎この4月からの2025年度より神学校献金が、神学生奨学金だけでなく、東京バプ、九州バプの両神学校への運営資金支援(年間350万円)として豊かに用いられるために。神学校献金の目標(総額2500万円)達成のために、各教会が豊かに取り組めるように。

#### ◎各教会・伝道所からの全国壮年会連合の会費納入のために。

### <お願い>

- それぞれのところで主にあつて頑張っておられる方々やその働きをご紹介ください。エマオ通信でその証を紹介いたします。
- 第1回壮年大会(1965年目白ヶ丘教会他)開催以来の大会資料をお持ちの方をご紹介くださいますように。